

## 自然を語る会 中村桂子さんの本の読書会 『生きている不思議を見つめて』

\*日時：2022年 9月 17日(土) 10:00~12:00

\*場所：ZOOM+飯田橋ボランティアセンター

\*参加者：24名

\*資料作成：近藤君子

10月1日の中村桂子さんの講演会に先立ち、中村桂子さんの本の読書会を行いました。課題本として『生きている不思議を見つめて』（藤原書店）を選びました。

飯田橋ボランティアセンターと繋いでオンラインでのハイブリッド開催となりましたが、初めての方も含めて多くの方が参加して下さいました。

読書会の前に中村さんのたくさんの著書の中から下記の作品を選んでご紹介しました。

### 『生きている不思議を見つめて』 藤原書店 2021年10月

“生命誌”という独自の視点から広がる豊かないのちの世界をやさしく語りかける。

藤原書店の月刊誌『機』連載、藤原書店創業30周年記念講演を書籍化。

### 『こどもの目をおとなの目に重ねて』 青土社 2020年9月

こどもの視線で「生命誌」を提唱する著者がやわらかな感性で問い返す。『中日新聞』を中心に新聞・雑誌等の掲載記事を単行本化。

### 『いのち愛づる生命誌』「中村桂子コレクション全8巻」 藤原書店 2019年7月～

生命科学をやさしく語り、美しく表現する思想を“生命誌研究館”として実現した著者の多岐にわたる仕事を集大成。

1. 1998年～2002年に記述した短文を掲載。[解説]鷺谷いづみ
2. 新しい知“生命誌”、生きものの“つながる”をやさしく語る。 [解説]村上陽一郎
3. 「人間は生きもので、自然の一部です」東日本大震災、新型コロナウイルスの流行。あたり前のことを基本にする社会に向かって。[解説]鷺田清一
4. 子どもを考えることは未来を考えること「生きる」を“科学”“日常”の両方を備えたまなざしで捉え、やさしい言葉で語りかける。[解説]高村 薫
7. 宮沢賢治の童話の力を借りて、生命誌による自然の理解を深めた文章などを収録。

### 『いのちのひろがり』 -たくさんのふしぎ傑作集- 福音館書店 2017年3月

わたしたちはどこからきたのか？ わたしたちへ受けわたされてきた「いのち」の物語。

### 『生命誌とは何か』 講談社学術文庫 2014年6月

生きものすべての歴史物語を読み取る「生命誌」の取り組みと展望を語る。

### 『科学者が人間であること』 岩波新書 2013年8月

「人間は生きものであり自然の中にある」という原点から科学・科学者を考え直す提言の書。

### 『「生きもの」感覚で生きる』 講談社 2002年1月

生きものらしく、人間らしく生きるための提言。

### 『生命科学者ノート』 岩波現代文庫 2000年3月

「生命誌」提唱者の原点とも言うべきエッセイ集。

『生命科学から生命誌へ』 小学館 1991年8月

「生命誌」の考えをわかりやすく説きながら、生命を愛おしむ気持ちを大切にする社会づくりまでも考察するユニークな文化論。

【読書会】

『生きている不思議を見つめて』 藤原書店 2021年10月

本書は藤原書店の月刊誌『機』に掲載された55のコラムからなるI「生きているを見つめ、生きるを考える」と、藤原書店創業30周年記念講演(2021年4月)の講演録・II「いのちを愛する生命誌—私たちの中の私」から構成されています。

参加者の方々から、Iの下記のコラムを取り上げて頂き、感想を語って頂きました。

- ・タコがすごい —タコの祖先はアンモナイト 24
- ・38億年の「生きている」と、一生の「生きる」 54
- ・イチジクコバチが熱帯雨林をつくる 57
- ・生物の歴史は絶滅の歴史とも言える 74
- ・地球の生命を支える熱帯雨林 77
- ・生きものの上陸 —緑豊かな高木の森が存在するのは 81
- ・生きものが絶滅しない環境を —博物館の地下から考える 99
- ・細菌に近い巨大ウイルス —ウイルスは生きものか 106
- ・菌も身の内、を知るべしです 112
- ・ばい菌とワクチン —長い歴史をもつ自然免疫 115
- ・オートファジーは細胞のリサイクル機能 128
- ・寿命遺伝子とカロリー制限 141
- ・最少の細菌・マイコプラズマ
- ・人間の眠りと遺伝子 —寝てばかりいるマウスは見つかったけれど— 182
- ・一人一人に応じてつくられ、はたらくタンパク質 191

「おわりに—生きものか機械かの選択、滅びへの道を避けて」(194)の文章について語られたことが多かったことも印象深く思いました。

II〈講演録〉「いのち愛する生命誌 私たちの中の私」(197)では、『生命誌絵巻』の意味するもの(207)について、多くの方が語られました。

最後に、10月1日に中村桂子さんと対談して下さる上遠恵子さんからもお話し頂きました。

アリとわたしたち人間は仲間。細菌も、すべて仲間。地球上にいるすべての生きものたちのほじまりは38億年前に生まれたひとつの細胞からで、つぎつぎと仲間を生み出しながらわたしたちへ受けわたされてきた「いのち」の物語から、気候変動、地球環境にも話題は広がり、ウイルスについてなど、未来につながる出来事なども参加者のみなさんと語り合えた読書会でした。

(近藤君子 記)